

教育目標	1 進取の気性に富み、豊かな心と健やかな身体を持った人間を育成する。
	2 真理を深く追求し、豊かな創造力と力強い実践力を持った人間を育成する。
	3 国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解するとともに、その将来を担う人間を育成する。
重点目標	① 全校登山やアジアアフリカ難民支援運動など岳陽の学びの4本柱を通じて、主体的に生きる生徒を育てる。
	② 基礎学力の向上を図るとともに、様々な進路選択に対応する学びを保証する。
	③ 多様な他者を受け入れ、互いを尊重する豊かな心を育み、いじめのない安心安全な学校をつくる。

		具体的目標	分掌	達成状況	達成度	課題・改善策	評価
教育活動	学習指導・進路指導	日々の学習を含め、土曜補習や模試などに主体的に取り組む姿勢を支援し、自らの進路実現に向けて適切な情報を提供する。	進路指導 学習指導	各学年で土曜補習、夏季補習など年間を通じて計画的に実施した。12月からの特編授業では、生徒のニーズに応えることができるよう編成に努めた。	B	土曜補習は意欲的な生徒もいる反面、生徒の参加率が下がっている傾向にあり、参加率を上げるとともに、補習の必要性について研究する必要がある。	
		進路探究や自主性、社会性を養う集団での体験的な学習に対する取り組みを支援する。	2学年	研修旅行では、大学見学等を通して進路への意識を高めることができた。また、クラスの団結も高まり、良い研修になった。	A	探究の中間発表があつたりと忙しく、事前学習の時間を多くとれなかった。	
		英語スピーチコンテストを通して、相手にわかりやすく効果的に伝えるよう、自分の考えを表現する能力を身につけられるよう支援する。	英語科	論文の構成やパラグラフライティングを指導することで、内容のわかりやすいスピーチを作ることができた。ALTの添削を受けて、より相手を意識した表現を学ぶことができた。	A	英語を使って自己表現する機会として十分有効に働いている。翻訳アプリに任せってしまう生徒もいるので、自分で考える力を養う必要がある。	
		海外留学生との交流を通し、国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解する。	教務	今年度は特に交流は無かった。	D	来年度は総合的な探究の時間などで、以前行っていた海外の高校との交流を検討したい。但し、担当教員の負担が大きいため、担当者によらない実施計画の作成が必要である。	B
		故郷の山に登り、故郷の山を知ることで故郷を愛する心を育む。また友と助け合い励まし合いながら山に登ることで、仲間意識を高める。	登山委員会	天候のため計画変更した隊もあつたが、概ね予定通り実施することができた。救助案件もあつたが、現地、本部共にスムーズに対応することができた。医師の帯同が非常に大きかった。	A	安全管理の検証を行った。衛星電話の導入、医療従事者の増員などに取り組んでいきたい。	
		アジアアフリカ難民支援運動を通して、地域の課題や国際的な課題について考える支援をする。	各学年	意欲的に取り組み、意義あるものとなった。講演会では実際のアフリカの現状を学び、支援の理解を深めた。	A	事前事後学習を深められるとなお良い。活動における安全性を確保する。	
	探究活動を通じた主体的な学びによって、実社会への関心を深める機会を支援する。	学習指導	探究活動自体が総合型選抜や学校推薦型選抜に直結するケースは、現状では限定的である。	B	理数探究と並行して中間報告会を行っているが、探究の進度、研究テーマが異なることから普通科にとっての中間報告会の有無を見直していく必要がある。		
	重点目標②	校内の情報センターとして、教科横断的・協働的に展開される生徒の学習支援をする。	図書館	1学年生徒に対し図書館オリエンテーションと探究の資料の取り扱いについてガイダンスを行った。探究学習や教科の授業において、図書や新聞などの図書館資料を活用している姿が多く見られた。情報発信の場として図書館のグループクラスルームを活用した。図書委員会主催の教養講座では外部講師を招き、進路や高校生活への示唆を得ることができた。	A	探究やその他教科の授業でより多くの生徒が図書館を利用し、書籍を活用できるようにしたい。そのために、どのような資料が必要かヒアリングをして資料の準備をしたり、図書館を利用してもらえるよう促していきたい。	B
		思考力・判断力・表現力を育てるために主体的・対話的な学習活動の研究、推進をする。	各教科	探究的な学びやグループ活動を通して生徒一人一人が主体的に取り組めるような支援を行った。	B	授業と家庭学習との連携、課題の出し方など工夫が必要である。また、主体的に学習できるようなICTの効果的な活用方法等を研究する必要がある。	
		生徒一人ひとりが社会との関わりを意識した進路目標を設定し、その実現に向けての取り組みを支援する。	各教科 各学年	教科指導、探究学習、進路学習を通して個々の進路目標の設定・実現に対して適切な助言ができた。	B	新教育課程や多様化した進路にいかに対応していくかが課題である。進路実現のために、多様な生徒へのきめ細かな対応を進めたい。	

		具体的目標	分掌	達成状況	達成度	課題・改善策	評価
教育活動	学習指導・進路指導	重点目標② ICT機器を利用した進路情報の提供を心掛け、進路に関するデータの分析や集計に有効に利用する	進路指導 学習指導	学年のGoogle classroomに所属し、進路情報を配信した。特に、共通テストWeb出願もあり、3年生には積極的に配信した。	B	情報の配信については、classroomのみならず、学校メール、紙ベースでの配信など多様なツールを用いての配信を心掛ける	
		探究的な学習を通じて主体的に取り組む姿勢を養い、自らの進路実現に役立てる		探究活動自体が総合型選抜や学校推薦型選抜に直結するケースは、現状では限定的である。	B	1学年普通科のリフレクティブラーニング前半で行われていたライブプランやキャリア研究等は、主体的な進路選択を促す意味で注目すべき実践である。	
教育活動	生徒会活動	重点目標③	各学年	文化祭、クラスマッチなどの各行事を通して概ね達成できた。	A	活動に参加できない生徒や、消極的な生徒への対応が課題である。	A
			生徒会	文化祭では全校製作やクラス展を生徒が主体的に企画し、地域企業と連携したSDGs活動も取り入れ、他者との協働を深めた。本年度は学校の魅力化や地元議会との意見交換にも参画した。	B	生徒が主体的に生徒会に参画する態度をさらに育みたい。行事の活性化と生徒自らが築く居心地のよい学校づくりを目指し、生徒がよりチャレンジしやすい環境を整え支援する。	
			各学年	クラスだけで抱え込むのではなく、学年全体で生徒たちを見守るよう努めた。	A	概ね大きなトラブルなく1年間が過ぎた。生徒同士の意思疎通でのトラブルがあるため、情報発信のやり方も含め適切な指導が必要である。また、SNSなど教員の把握が難しい部分での対応が課題である。	
			各学年 生徒相談	職員間で生徒情報を共有し、必要部署と連携して対応することができた。人権に関する映画鑑賞などを実施し、生徒の人権意識の向上を図った。	A	生徒の人権意識の向上を図るために各教科の授業実践との連携を図るように努めたい。SOSを出せない生徒の状況を把握するのが課題である。	
学校運営	安心安全な学校	その他	各学年	全体的には安全・安心・健康的な学校生活を送れている。	A	心身の不調で健康的な学校生活を送れない生徒への対応が課題である。	B
			生徒指導	年2回の学校生活アンケートと7月保護者懇談会、10月、12月面談週間を実施した。各学年、係と状況が共有でき生徒の実態把握を行うことができた。	B	今年度同様のアンケート、面談等を通して、また係、学年と連携しながら引き続き生徒の現状把握に努める。	
			生徒相談	不登校や特別支援の必要な生徒への支援策を考える際に外部機関(SC,SSW,市町村等)との連携を図って取り組んでいる。	B	オンライン授業等、様々な生徒支援のあり方が問われ、検討することが多くなってきている。また、普通高校における合理的配慮について考えを深め、検討していきたい。	
学校運営	その他	コンプライアンス委員会	職員会議にて、非違行為防止研修を複数回実施した。具体的な事例を取り入れることで、職員一人一人が自分中心として捉えることができた。	B	同僚性を高め、互いに気軽に話せる職場環境作りに努めていきたい。	C	
		ビジョン委員会	3つの方針の共通認識のもと、「魅力ある学校作り」に向けて生徒・職員が一体となり協働しながら様々な教育活動に取り組むことができた。また、生徒会と大町市議との意見交換会を行い、将来に向けた地域課題の解決や岳陽の魅力発信について協議し、今後に繋げることができた。	A	大町岳陽高校創立10周年を迎え、12区の拠点校として、今後に向けた本校の存在意義・魅力を再考し、学校運営体制・教育カリキュラム・学校行事等についての審議を深めていきたい。		
		教務係	8月、11月に校内授業見学期間を設定し、研究授業を中心に延べ30名の先生が授業見学を行った。	B	生徒のタブレット利用率は低く、利用率を上げるために研修を行う必要はあるが、タブレットの効果的な利用は難しさを感じる。効率的な利用を含めて検討が必要である。		

達成度 100%:A 80%:B 50%:C 30%:D 20%未満:E

評価は職員による5段階評価の平均値より算出。

4.5以上:A 4.0以上:B 3.0以上:C 2.5以上:D 2.0未満:E